

平成 23 年度第 3 回朝日地域審議会

会議録（概要）

期日：平成 23 年 10 月 28 日（金）

場所：鶴岡市朝日庁舎 大会議室

○日 時：平成 23 年 10 月 28 日（金） 9 時 30 分から 11 時 30 分まで

○会 場：鶴岡市朝日庁舎 4 階 大会議室

○出席者：敬称略

（委員）小関祐二、松本壽太、佐藤照子、伊藤文一、佐藤芳彌、宮崎康史、大滝清策、佐藤正、井上時夫、菅原孫一、今野めぐみ、  
（20 名中 11 名出席）

（市側【庁舎】）支所長、各課課長・主幹、総務課職員

（市側【本所】）地域活性化推進室職員

1. 開 会

2. あいさつ 会長

3. 協 議

《定住化対策》「住んでいたい」「住み続けられる」地域へ

意見（小関祐二）

定住化のためには、教育、医療、文化水準の確保とあるが、教育が一番重要だと思う。先日、秋田県東成瀬村に行ってきたが、そこは日本で一番教育水準が高い場所と言われている。そこで、どういった教育を行っているか聞くと、「何もしていない、自然のままに育てている。」と言っていた。よくよく聴くと、たくさん歩くなど健康な体に知識がつく、体を丈夫にしないといけないという考えを地域全体で持っている。これなら朝日地域でもできると思った。子どもたちの教育に今ある環境をどう生かしていくか考える必要がある。過疎化が進んでおり、後継者が居ないことが全ての共通課題となっており、子どもをいかに育てるかに力を入れるべきである。

意見（大滝清策）

大鳥では、タキタロウ村の活動を 9 年続けている。会員は 200 家族となり、市外からも来村し自然と触れ合っている。春に山菜まつり、秋キノコまつり、新そばまつりなど行っているが、地域の現実は大変である。9 年続けていると、自分も年を取っていく。農業、産業を一本化して、収入を安定させることが必要である。

意見（菅原孫一）

タキタロウ村の収支は、9 年間でどのような状況になっているか。

意見（大滝清策）

今のところ儲けは考えず、大鳥の自然を楽しんでいる。ただ、市外からタキタロウ村に来る人には、途中のトンネルを見て帰ってしまった人がおり、地理的には厳しい現実もある。

意見（佐藤芳彌）

私もタキタロウ村の会員となっているが、収支の面ではまだ課題があるようである。

意見（佐藤正）

教育の面で学校統廃合、保育園統廃合が進められており、定住化とは矛盾するのではないかと感

じている。合併後6年間の経過を見ると、周辺地域にとっては大変厳しい状況が続いている。保育園にしても、下水は浄化槽になっていることなど、山間地については特例があってもいいのではないか。高校生の通学助成ができないかという要望があるが、非課税世帯に限り対象となっている。また、最近集落で子どもが高校生になったと同時に転出していく世帯があった。大泉地区では他にもこういった世帯があるようだ。自分の子どもを高校に通学させるのに交通費で年数十万掛かる。こういった厳しいハンデをカバーする施策がないと、教育を議論する前の問題である。通学助成の対象緩和について、是非早急に行ってほしい。

意見（井上時夫）

大鳥もそうだが、大網地区にも広い範囲に山があり、国産材が良くなってきたとも聞き、そこで仕事ができるようになれば雇用が生まれるのではないか。会社を定年になった人が自分の山に入っているようだ。こういう人をバックアップすることができないか。山菜を取りに行っても、自分で食べる分しか採らないようだ。

意見（佐藤照子）

後継者対策ではないが、リタイヤした人が農業へ参加できる体制を作れないか。60代であれば、まだまだ働くことができ、朝日地域では農業となるのではないか。

キノコの菌助成をしているが、朝日のキノコは評価が高くなっており、事業を継続してほしい。

意見（宮崎康史）

消防団の立場としての発言だが、消火栓BOXの整備について朝日地域には小さい集落が多く、地元で整備しようとする一軒一軒の負担が大きくなる。行政での整備を要望する。

意見（伊藤文一）

ダムで下流の人は守られている。川上の人の生活が維持できなくなっているのか不安である。タキタロウ村は頑張っているようだが、頑張らなくても地域が維持できるようになれば定住化は実現しないのではないか。山では、立木が値上がりしている話があるが、まだ採算が取れる状況にはなっていない。また、キノコの菌補助があっても、高齢化により作る人が少なくなっている。農業の六次産業化というが、資金面、ノウハウで課題がある。朝日地域は、米づくりだけでは無理があり、行政と一体となって情報を得ながら、改善できる方法を考えている。

意見（松本壽太）

日本全体が人口減少している。農業、農村地帯を復興するには、外国から移住を受け入れる方法があるのではないか。今のままでは労働者が居なくなる。家庭、地域で外国人を受け入れ、農業の担い手になってもらう。朝日地域では、ウメちゃんキムチが頑張っている。異文化を受け入れることで活気が生まれ、経済が発展するのではないか。犯罪率の向上など、問題もあると思うが、体制を整えて労働力を確保することを考える必要があるのではないか。

意見（今野めぐみ）

まちづくり塾のメンバーとなっており、先日、地域めぐり研修に参加した。身近な場所で知っているつもりで行ったが、改めて久しぶりに訪れると再発見があった。タキタロウ村にしても、朝日の中で知らない人が居ると思う。実際に体験してもらえば楽しいことが多い。そういうことをまず知ってもらうことが大事であり、どうやって宣伝していくか考える必要がある。

また、教育の面では、運動する子どもが少なくなっていると感じる。体力がなくなっており、外遊びをする子が少なくなっているのではないか。スポーツ少年団指導の立場では、指導者が居なくなっている。声を掛けるが、仕事が無いため外に出て行ってしまい、定住することができない。

地元の仕事があれば残るし、残れば子どもが生まれ、全て繋がっている。若い人が活躍できる場があれば良いのではないか。最初はイヤイヤでも、参加すれば楽しくなり、いろんな方面から声を掛けていくことが必要である。若い人に役割を感じてもらえれば、地域も活性化していくのではないか。

意見（菅原孫一）

山菜、ナメコなど地場産品について、リタイヤした人ができればという話が出ていた。自分はその立場で、稲作をしていたが、いくら作ってもプラスマイナス0となるため、今年は作っていない。今は、みょうが、わらび、ぜんまいをしているが、これだと十万、二十万円と少なくはあるが手元に残る。以前に、加工場の話があったが、リタイヤした人は大きなことはできないと思うので、あまり過大な設備投資ではなく、今ある設備を活用できるようにしてほしい。また、栽培、販売のポイントについて情報の提供をお願いしたい。ある程度の現金収入となる方策がないと人は来ないのではないか。

意見（井上時夫）

診療所があるおかげで、診察してもらえることは非常にありがたい。また、田麦俣集落からの送迎も、家族に頼むことのできない人が居り、非常に助かっている。救急の医療について、大網は荘内病院まで20数km離れており、診療所の継続を望む。

意見（小関祐二）

教育は長期的に考える必要がある。文化は生活がしっかりしないと考えられない。医療は憲法で保障されていることであり、国が責任を持って対応してほしい。

また、雇用について、人が先か産業が先かとなるが、まず産業が先で人が集まってくるのではないか。

なお、今年でそばまつりが終わりということだが、形が違って何となく続けていく方策を考えて欲しい。住民の側でもこうして欲しいという要望ばかりではなく、自分ではこうするのでこうしてほしいという姿勢が必要である。

先日、注連寺で六十里越街道フォーラムが開催され、ゴジラの監督本多猪四郎の御子息と話をした。朝日を拠点にゴジラと連携し、ゴジラマラソン、ダムからゴジラを出すなど非常に夢が膨らんだ。世界で一番有名な日本人はゴジラである。ゴジラわらび、ゴジラ木材でも何でも産業に波及することができる。ゴジラの本家とホットラインを結ぶことができ、希望でいっぱいである。

意見（支所長）

教育の面では、今の子どもは家にこもっていると感じる。大学入試では1点で差をつけているが、何が大事かを教えていくのが大切であり、個性を生かしていく必要がある。

また、定年後の過ごし方で、定年帰農の話が在った。元気な高齢者はたくさん居り、オールドパワーを農業に活用する行政の支援があればいいのではないか。

住民の方からは要望、意見がたくさんいただいているが、財政が厳しい中、パートナーとして行政と住民が役割分担していく考え方が重要となるのではないか。

意見（総務課長）

朝日地域では、交通手段、アクセスが課題となっている。バスは走っているが不便という意見があり、路線から離れた集落もある。高齢者のためのフリーパスもあるが、バスのあり方について提言をいただきたい。

意見（大滝清策）

大鳥では、バスが無くなると大変である。高齢者が多く、金融機関、医療などの面でもバスが無いと行けなくなる。

意見（佐藤正）

提言の内容について、前提として合併の弊害を入れて欲しい。また、農業振興施策として販売促進員等の提言も含め、全体的な販売戦略への提言として不満がある。なお、クリーンエネルギーの活用について薪ストーブの活用があるが、ペレットなら分かるが、今どき薪ストーブは無いのではないか。

意見（伊藤文一）

薪ストーブについて、自分は賛成である。薪づくりだけでも教育になり、山村では進めていくべきものである。また、降雪量が減少とあるが、実際の積雪量は減っていない。雪の処理技術が発達したため、減っているように感じているのではないか。

意見（支所長）

薪ストーブも昔のイメージとは違っており、使用している人がいる。提言書の文言については、委員の皆さんに協議しながら精査していくことになる。

意見（松本壽太）

提言について、何らかの回答はあるのか。

意見（佐藤芳彌）

提言は各地域をまとめて市長に提出することになるが、審議会の意見を検討してもらった上、提言書に対する回答はもらえないか。

意見（事務局）

提言については、可能な範囲で予算要求に反映したいと考えている。回答については、そういった要望があったことを伝えていく。

意見（佐藤芳彌）

提言書案は検討の必要も有り、事前の配布をお願いしたい。

#### 4. その他

行政改革について（総務課長が説明）

##### 【質疑応答】

質問（宮崎康史）

消防団事務の本所移管に反対する。消防署員は一日交代で休むことになり、連絡が取れないことがある。また、消防本部管轄となると、署員と団員が並列的になり、給料をもらいながらしている者とボランティアの者が同じ組織、系列の中で動くことは、感情的に反対である。

回答（総務課長）

行政改革について確定したものではないと言ったが、大きな方向性としては、説明のとおりであり、細部について現在詰めているところである。

質問（佐藤正）

粗末な説明書で分からない。項目で書かれても意味が分からず、素人でも分かるような表現にしてほしい。部門によってはブロック化するとの説明だが、3ブロックと言うことは朝日地域から無くなるのか。心配していたが、庁舎を縮小して無くするつもりか。

回答（総務課長）

現在 5 つの庁舎があるが、税務、建設の部門をブロック化する計画であり、藤島・羽黒、櫛引・朝日、温海の 3 ブロックの予定で作業を進めている。

質問（佐藤芳彌）

庁舎の位置付けとはどうなっているのか。

回答（支所長）

行財政改革大綱に基づく実施計画では、庁舎ブロック化によって建設と納税部門を統合するとなっているが、では無くなる地域庁舎をどうするのかという議論がある。まだ検討段階ではあるが、それぞれの庁舎に窓口機能を残す必要があると考えており、統合した部門がある庁舎に行かなければ相談できないということがないように協議を進めている。ただし、まだ何がどこに行くという細部については決定していない状況である。

その他

次回開催は 1 1 月 2 4 日を予定することを確認。

会議は午前中に開催し、午後に研修視察、夜に懇談の場を計画することとする。

5. 閉 会